



環境

基本方針

製品・サービスの開発から調達、生産、輸送、販売、使用後まで全ての段階で環境への影響を配慮した事業活動と負荷低減に継続的に取り組んでまいります。

長期目標

- 2027年までに日本国内事業のCO₂排出総量を2013年度比で6.5%以上の削減。
- 2027年までに原料の起源となるパーム油の全量を認証パーム油とする。
- 2027年までに紙製容器包装の全量を認証紙とする。
- ゼロエミッションの継続達成。

重点取り組み

- 製品・サービスの環境配慮プロセスと結果が評価できるマネジメントシステム構築による「商品の環境配慮」の継続的な向上
- パリ協定に基づく脱炭素社会の形成にむけた取り組みと温室効果ガス排出削減のための全拠点における取り組みの推進
- 製品のライフサイクル全体を考慮した生物多様性への影響把握と生物多様性保全の推進
- 産業廃棄物の循環利用のためのゼロエミッション(再資源化)の達成と定着

環境理念と環境方針

わたしたちマンダムグループは、事業活動を通じて、生活者や社会にお役立ちをしたい、地球環境の保全に努めたい、日常業務において一人ひとりが環境について考えたいという思いから、1999年8月にマンダム環境理念、環境基本方針、福崎工場(環境方針)を制定し、2000年11月には福崎工場が「ISO14001」を認証取得しました。

その後、2016年5月には、「バリューチェーンを通じた環境保全の取り組み」、「社会からの要求への対応」、「計画的なパフォーマンスの向上」の強化を図ることを目的として、環境理念を改訂するとともに、「商品」「生物多様性保全」「福崎工場」を重点3領域とし、それぞれの環境方針を定め、環境活動を推進しています。

環境理念

わたしたちは、バリューチェーンにおける環境への影響把握に努め、社会との連携を図りながら、計画的に環境保全を推進します。

環境方針

●商品の環境方針

わたしたちは、環境配慮を商品「価値」の一つと位置づけ、持続可能な社会づくりに「お役立ち」するため、環境(エコロジー)と経済(エコノミー)が両立する商品の「価値づくり」を推進します。

●生物多様性保全方針

わたしたちは、様々な生物からの恵みと自然の豊かさから恩恵を受けていることを認識し、バリューチェーンにおける生物多様性への影響把握に努め、生物多様性への影響回避と低減に取り組みます。

●福崎工場環境方針

わたしたちは、化粧品および医薬部外品の生産活動における環境への影響把握に努め、持続可能な社会づくりに「お役立ち」するためによりよい地球環境の保全および地域社会との共生を目指して、環境活動を推進します。

1. 生産活動が環境に与える影響を的確に捉え、技術的、経済的に可能な範囲で、環境目標を定め、取り組み、定期的に見直し、環境保全の継続的改善を実施します。
2. 生産活動における環境負荷低減を目指し、下記の項目を重点的に取り組み、持続可能な社会づくりに「お役立ち」します。
 - (1) 省エネルギーを推進し、温室効果ガス(二酸化炭素)排出量の削減
 - (2) 埋立処分廃棄物ゼロ(ゼロエミッション)の推進
 - (3) 産業廃棄物排出量の削減
 - (4) 排水リスクの予防による地域環境の保全
3. 環境法規制および地域社会や利害関係者との合意事項を順守し汚染の予防に努めます。
4. 従業員一人ひとりが、本環境方針に沿った自らの役割を自覚し、行動するよう努めます。

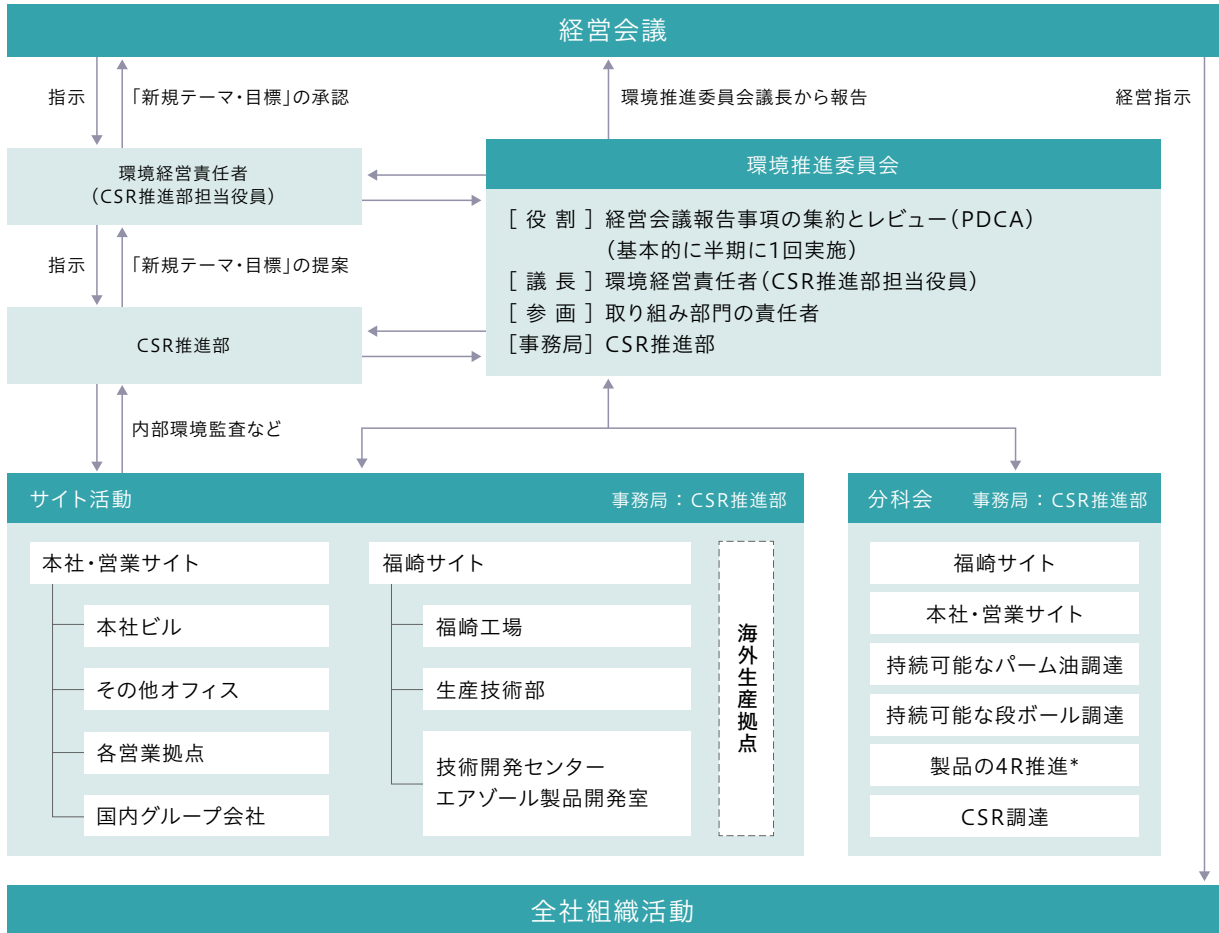
この環境方針は、必要とする社内外のすべての方々に公表します。

■ 環境推進体制と分科会による活動

マンドムでは、環境保全を経営上の重要課題と位置づけ、「環境理念」、「環境方針」に基づいた環境活動を推進しています。

福崎工場では、2000年11月にISO14001の認証を取得、オフィス(本社ビル、東京日本橋ビル、青山マーケティングオフィス、各営業拠点など)では、ISO14001に準拠した環境マネジメントシステムを構築し、環境目標を設定してPDCA(Plan-Do-Check-Action)サイクルによる環境推進活動を実施しています。

環境推進体制



■ 分科会などによる3カ年の活動テーマと目標

環境活動を推進するため、サイト別での活動と分科会による活動を行っています。

なお、2018年度より、スコープ3・サプライチェーン排出量算定にむけた取り組みをスタートしてまいります。

2017年度分科会	3カ年の活動と目標(2017年度~2019年度)
福崎サイト	<ul style="list-style-type: none"> ■ 長期目標を達成するためのCO₂排出削減・省エネ計画の策定と実施 ■ 産業廃棄物の再資源化(ゼロエミッション)の継続と、再資源化率の向上
本社・営業サイト	
持続可能なパーム油調達	■ 福崎工場仕入れのグリセリン全量のRSPO認証油化(ブックアンドクレーム方式)
持続可能な段ボール調達	■ 製品流通に使用する段ボール全量のFSC認証紙化(努力目標)
製品の4R推進*	<ul style="list-style-type: none"> ■ ラミネート包材全てにおけるバイオマス資材の配合 ■ 紙製容器包装のFSC認証紙化(目標:50%以上)
CSR調達	<ul style="list-style-type: none"> ■ マンドムグループ「調達先CSRガイドライン」の継続的な見直し ■ サプライチェーンのモニタリング機能強化と対象範囲の拡大

*4R推進: Reduce(減量)、Reuse(再利用)、Recycle(資源の再利用)、Renewable(再生可能な資源や原材料の利用)の推進

■ 製品・サービスの環境配慮

■ マイクロプラスチックビーズ使用中止の方針

近年、海洋中に流出するプラスチックに関し、食物連鎖を通じて生態系に与える影響が議論されており、米国では、2015年12月に、洗い流しのパーソナルケア製品に関し、マイクロプラスチックビーズの使用を段階的に廃止する法律が定められました。

こうした状況も踏まえて、マンダムグループでは、今後、洗い流しの製品にマイクロプラスチックビーズを使用しないとともに、2017年末までに洗顔料に配合しているマイクロプラスチックビーズを本懸念のないものに代替する方針を定めました。2016年8月には、日本国内のギャツビー洗顔スクラブを環境に配慮した「生分解性スクラブ」を採用した商品にリニューアルしました。また、2017年度は、インドネシアで製造している海外向けギャツビー洗顔スクラブの代替原料化を完了し、新製品の出荷を開始しました。

■ 生物多様性の保全

マンダムでは、2016年4月に生物多様性の保全に関する方針を策定し、環境方針(P.35参照)に新たに盛り込むとともに、2017年2月のCSR推進委員会にて、マンダムグループCSR重要課題(第2版)として、以下の長期目標を設定しました。

1. 2027年までに原料の起源となるパーム油の全量をRSPO^{※1}認証パーム油とすること
2. 2027年までに紙製容器包装の全量をFSC^{※2}認証紙とすること

※1 RSPO: 持続可能なパーム油のための円卓会議
(Roundtable on Sustainable Palm Oil)



外部サイト

WWFジャパン公式WEBサイト

●RSPOについて



外部サイト

FSC^{※2}

●FSCジャパン公式WEBサイト

なお、この取り組みは、環境、生物多様性の保全のみでなく、関係するサプライヤーさまや有識者、NGO・NPOなど多様なコミュニティの方々との協力関係を積極的に構築・強化しながら、人権や労働の課題にも配慮した「CSR調達体制の構築と運用」にもつなげてまいります。

■ 持続可能なパーム油の調達

環境への影響に配慮した持続可能なパーム油の調達にむけて、2017年度における取り組みとしては、2018年3月に「持続可能なパーム油のための円卓会議(RSPO)」に加盟をいたしました。将来の長期目標にむかって、福崎工場での使用において、パーム油由来原料として最も使用量の多いグリセリンに対して、その購入量に応じて、RSPOサプライチェーン認証モデル「ブックアンドクレーム方式」によるクレジット購入の計画を策定いたしました。

■ 持続可能な紙製容器包装資材の調達

持続可能な紙製容器包装資材の調達に関する2017年度の取り組みとして、福崎工場において当社製造の商品の輸送に使用する段ボールを対象に、2018年2月新規納品分より、FSC認証を受けた段ボールへ順次、切り替えを開始いたしました。

■ 脱炭素社会の実現にむけた取り組みの推進

■ 福崎工場での取り組み

福崎工場では、エネルギー監視システムの電力使用量データを毎月の所属長会議で共有し、工場各課における節電対策に活用しています。また、空調や冷却装置に夜間電力を熱エネルギーに転換して昼に使用する氷蓄熱システムを採用することで電力の有効利用や、空調機器の更新、照明のLED化を進めています。

2017年度の福崎工場の電力使用量は749.2万kWhで前年度比100.1%(売上高原単位の前年度比96.3%)、CO₂排出量(スコープ1+2)は4,125トンで前年度比97.3%(売上高原単位の前年度比93.7%)となりました。



福崎工場のエネルギー監視システム

■ オフィスでの取り組み

本社ビルでは、デマンド監視装置で時間帯別の電力量を管理し、最大需要電力(デマンド値)を抑制しています。また、照明のLEDへの切り替えや変圧器の高効率型への変更にも、継続的に取り組んでいます。

2017年度の国内オフィスでの電力使用量は311.7万kWhで前年度比103.1%、CO₂排出量(スコープ1+2)は2,091トンで前年度比99.8%となりました。



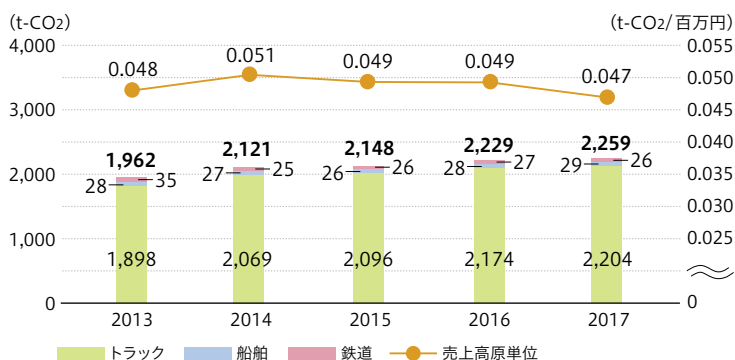
本社ビルのデマンド監視装置

■ 物流・輸送での取り組み

物流・輸送によるCO₂排出量を削減するために、業務の効率化やトラック輸送を貨物列車・貨物船輸送に切り替えるモーダルシフトに注力しています。また、物流・輸送業務の効率化を目的として、2004年10月より物流・輸送の業務を外委託しており、姫路から九州の物流拠点までは主に鉄道貨物輸送、舞鶴から北海道の物流拠点までは海上貨物輸送としています。なお、トラック輸送については、積載率を限りなく100%に近づけるよう継続して努めています。

2017年度の物流・輸送によるCO₂の排出量は2,259トンで前年度比101.3%(売上高原単位の前年度比95.9%)となりました。

輸送・配送におけるCO₂排出量(スコープ3・カテゴリー4の一部)



■ 循環型社会形成の推進

■ 水資源の有効活用

福崎工場では、日頃から各部署における節水の呼びかけや生産設備・配管などの洗浄方法の見直しなどを行い、水使用量の削減に努めています。また、本社ビルでは、水量調節ができる器具や、節水型の水洗トイレを導入しています。

2017年度の水資源使用量は83,649m³で前年度比92.7%(売上高原単位の前年度比89.2%)と大幅に削減されました。

■ 廃棄物への取り組み

福崎工場では、2003年10月以降、産業廃棄物の再資源化を99%以上とする「ゼロエミッション」を達成し、2017年度においても、国内の全事業所で達成しました。

本社ビルでは、廃棄物の削減とリサイクル促進のため、異動者、新規入社者を対象に環境問題に関する講義、廃棄物の適正区分・適正処理のルールなどの説明会を毎年6月に実施しています。

2017年度の一般廃棄物を含む廃棄物排出量は3,433トン^{*}で前年度比100.3%となりました。

^{*}2017年度報告より、廃棄物には返品商品(大気放散含む)や販促物の廃棄を含めて実績を算出しています。

廃棄物再資源化率(産業廃棄物と一般廃棄物を含む)

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
福崎工場	99.7%	99.7%	99.8%	99.7%	99.8%
オフィス [*]	80.5%	76.8%	73.8%	78.3%	78.6%
国内合計	98.5%	99.0%	99.3%	99.3%	99.4%

^{*}オフィスは本社ビルと東京日本橋ビルの合計

■ 汚染防止への取り組み

福崎工場では、大気汚染物質である硫黄酸化物(SO_x)や窒素酸化物(NO_x)の排出量を抑制するため、ボイラーの使用効率向上や電気温水器の導入などの対策を講じています。

2017年度は、硫黄酸化物(SO_x)の排出は21kgにて前年度比61.8%となったものの、窒素酸化物(NO_x)の排出は342kgにて前年度比139.6%になりました。

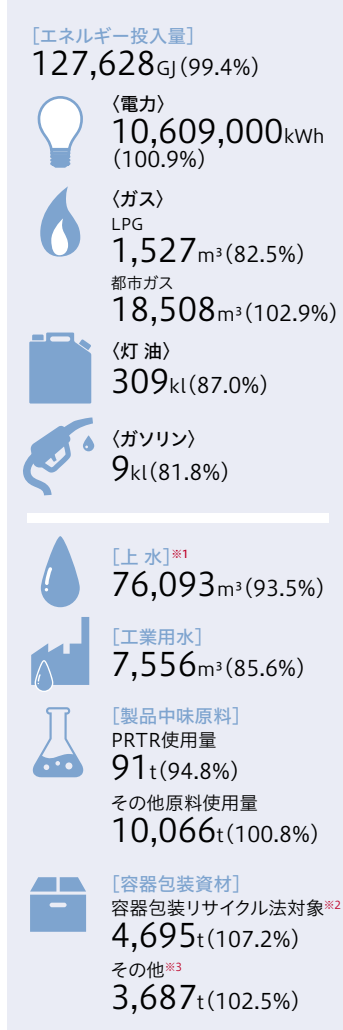
■ 排水への取り組み

2015年9月より、福崎工場からの排水は、兵庫県の福崎町下水道に接続されたことで、排水基準が緩和されることになりましたが、協定値より厳しい排水基準を設定し、排水処理を行っています。また、下水道へ排水した水質測定結果は、1カ月ごとに福崎町へ報告しています。

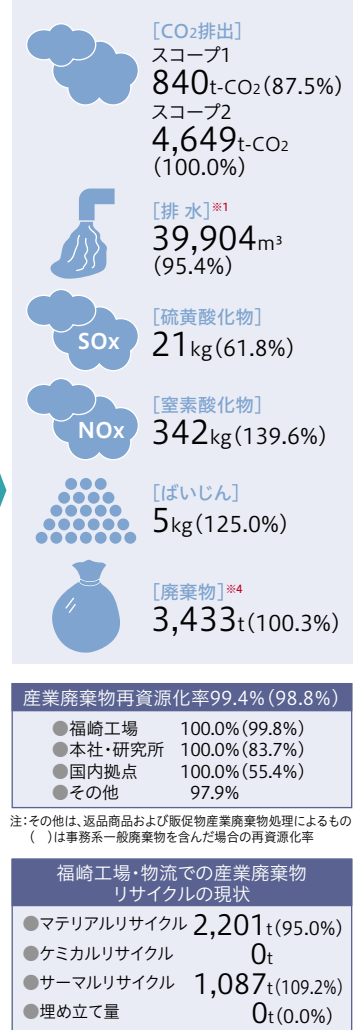
2017年度の国内トータルの排水量は、39,904m³で前年度比95.4%(売上高原単位の前年度比91.8%)になりました。

国内マンドムグループの環境負荷の全体像(2017年度実績と前年度比)

【工場、オフィス・研究所】



【工場、オフィス・研究所】



注:その他は、返品商品および販促物産業廃棄物処理によるもの()は事務系一般廃棄物を含んだ場合の再資源化率

(備考)外注加工品は含まず

【物流・輸送】



【物流・輸送(スコープ3・カテゴリ-4)】



【営業活動】



【営業活動(スコープ1)】



- ※1 上水使用量および排水量は、営業拠点を除く(データ入手困難)
- ※2 ガラス製、紙製、プラスチック製容器など
- ※3 容器包装資材には流通資材は含まず(データ算出困難)
- ※4 廃棄物には返品商品(大気放散含む)や販促物を含む
- ※5 フィールドスタッフ等の推計値を含む



【お客さま】



〈国内マダムグループの環境負荷データの推移〉

データ集計期間：記載年度の4月から翌年3月まで
 データ収集範囲：日本国内の生産事業所(1事業所)、非生産事業所(10事業所)、連結子会社(1社)、非連結子会社(1社)
 売上高原単位：売上高百万円単位にて算出

	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度
総エネルギー投入量(GJ)	126,979	129,338	127,675	128,377	127,628
福崎工場	80,700	85,074	85,179	86,776	85,132
オフィス	46,279	44,264	42,496	41,601	42,496
売上高原単位	3.101	3.106	2.895	2.794	2.673
エネルギー投入量の内訳(GJ)	126,979	129,338	127,675	128,377	127,628
電力(千kWh)	10,056	10,470	10,354	10,511	10,609
福崎工場	6,809	7,273	7,281	7,487	7,492
オフィス	3,247	3,198	3,073	3,024	3,117
売上高原単位	0.246	0.251	0.235	0.229	0.222
ガス(m³)	20,457	20,175	20,929	19,838	20,035
LPG	1,671	1,981	1,988	1,852	1,527
都市ガス	18,786	18,194	18,941	17,986	18,508
灯油(kl)	369	368	367	355	309
ガソリン(kl)	377	350	333	323	322
水資源使用量(m³)	99,097	86,669	95,416	90,229	83,649
福崎工場	87,040	76,292	85,358	80,619	73,352
上水	63,843	63,944	74,872	71,789	65,796
工業用水	23,197	12,348	10,486	8,830	7,556
オフィス	12,057	10,377	10,058	9,610	10,297
売上高原単位	2.420	2.082	2.163	1.964	1.752
原材料使用量(t)	15,278	15,894	17,256	18,055	18,539
製品中味原料	9,283	9,490	10,100	10,078	10,158
PRTR	69	46	102	96	91
その他原料	9,214	9,443	9,998	9,982	10,066
容器包装資材	5,996	6,404	7,156	7,977	8,382
容器包装リサイクル法対象	3,314	3,563	4,083	4,380	4,695
その他資材※1	2,682	2,842	3,073	3,597	3,687
売上高原単位	0.373	0.382	0.391	0.393	0.388
CO₂排出量(スコープ1+2)(t-CO₂)	6,650	6,616	6,729	6,334	6,216
福崎工場	4,284	4,352	4,486	4,239	4,125
オフィス	2,366	2,264	2,242	2,095	2,091
売上高原単位	0.162	0.159	0.153	0.138	0.130
排水量(m³)	47,336	45,109	48,740	41,845	39,904
福崎工場	35,279	34,732	38,546	32,235	29,607
オフィス	12,057	10,377	10,194	9,610	10,297
売上高原単位	1.156	1.083	1.105	0.911	0.836
廃棄物排出量(t)	4,080	3,743	3,649	3,422	3,433
福崎工場・物流	3,984	3,652	3,571	3,337	3,314
オフィス※2	96	90	78	85	119
再資源化率(%)	98.5%	99.0%	99.3%	99.3%	99.4%
硫黄酸化物(SO_x)排出量(kg)	26	28	25	34	21
窒素酸化物(NO_x)排出量(kg)	263	210	141	245	342
ばいじん排出量(kg)	5	14	3	4	5

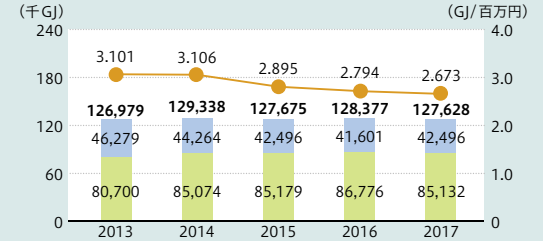
※1:流通資材は含まず ※2:廃棄物排出量は2017年度より返品商品(大気放散含む)や販促物の廃棄量を加算

参考：輸送・配送(上流)におけるCO₂排出量(スコープ3・カテゴリ-4のみ)

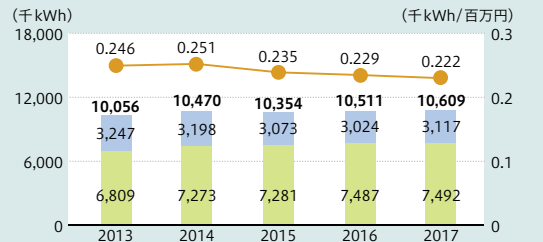
CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	1,962	2,121	2,148	2,229	2,259
トラック	1,898	2,069	2,096	2,174	2,204
船舶	28	27	26	28	29
鉄道	35	25	26	27	26
売上高原単位	0.048	0.051	0.049	0.049	0.047

■ オフィス(本社、東京日本橋、青山、各営業拠点)
 ■ 福崎工場
 ● 売上高原単位 ● 再資源化率

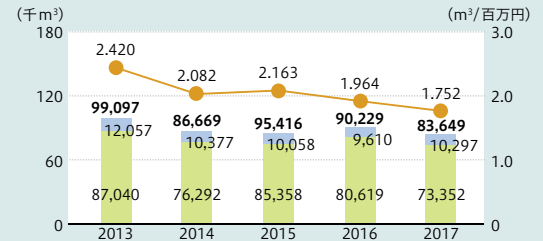
● 総エネルギー投入量



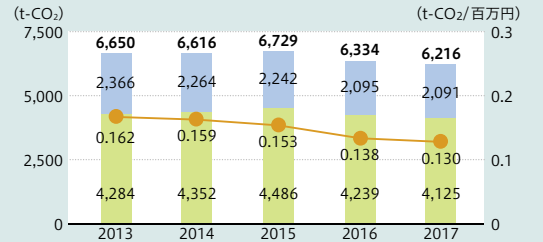
● 電力使用量



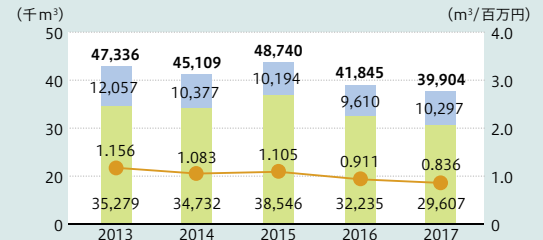
● 水資源使用量



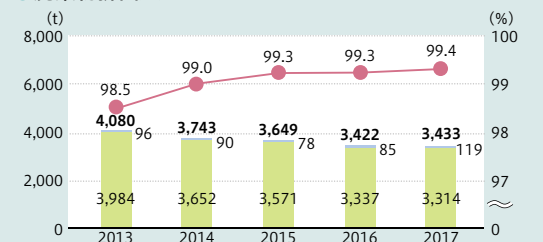
● CO₂排出量(スコープ1+2)



● 排水量



● 廃棄物排出量



海外を含む環境負荷データなど、詳細な情報については、マダム公式WEBサイトCSR情報の環境情報のページをご参照ください。